

平成11年6.29災害との比較

呉工業高等専門学校
森脇 武夫

広島・呉地域における戦後の主な土砂災害

災害	被害状況	降雨条件
1945年 昭和20年9月災害 (枕崎台風)	呉市, 江田島町, 大野町, 宮島町を中心に 大災害. 死者・行方不明者 2,558名 , 負傷者1,054名, 損壊家屋6,832戸	連続雨量218.7mm(広島), 250.7mm(呉) 時間最大雨量57.1mm(広島)
1967年(22年後) 昭和42年7月災害 (豪雨)	呉市を中心に大災害 死者・行方不明者 159名 , 負傷者231名, 損 壊家屋1,119戸	連続雨量317mm(呉) 時間最大雨量74.7mm(呉)
1999年(32年後) 平成11年6.29災害 (豪雨)	廿日市市、広島市西部、呉市を中心に大災 害 死者・行方不明者 32名 、負傷者54名、損壊 家屋4,785戸	連続雨量 389mm 時間最大雨量81mm (広島・八幡川)
2014年(15年後) 平成26年8月災害 (豪雨)	広島市安佐北区、安佐南区で大災害 死者・行方不明者 86名 、負傷者43名、損壊 家屋378戸(広島県災害対策本部、8/26現 在)	連続雨量319mm 時間最大雨量 121mm (広島・三入東)

15～30年ごとに繰り返される

平成11年6.29災害との違い

- 降雨状況

- 先行降雨が少なく、非常に強い雨が極めて短時間かつ局所的に集中
- 深夜2時頃から急激に強くなる

- 災害発生場所

- 非常に狭いエリアで発生
- 住宅密集地の直上で土石流が発生
- 花崗岩・まさ土斜面以外に、粘板岩などの堆積岩の斜面でも発生

- 災害の種類

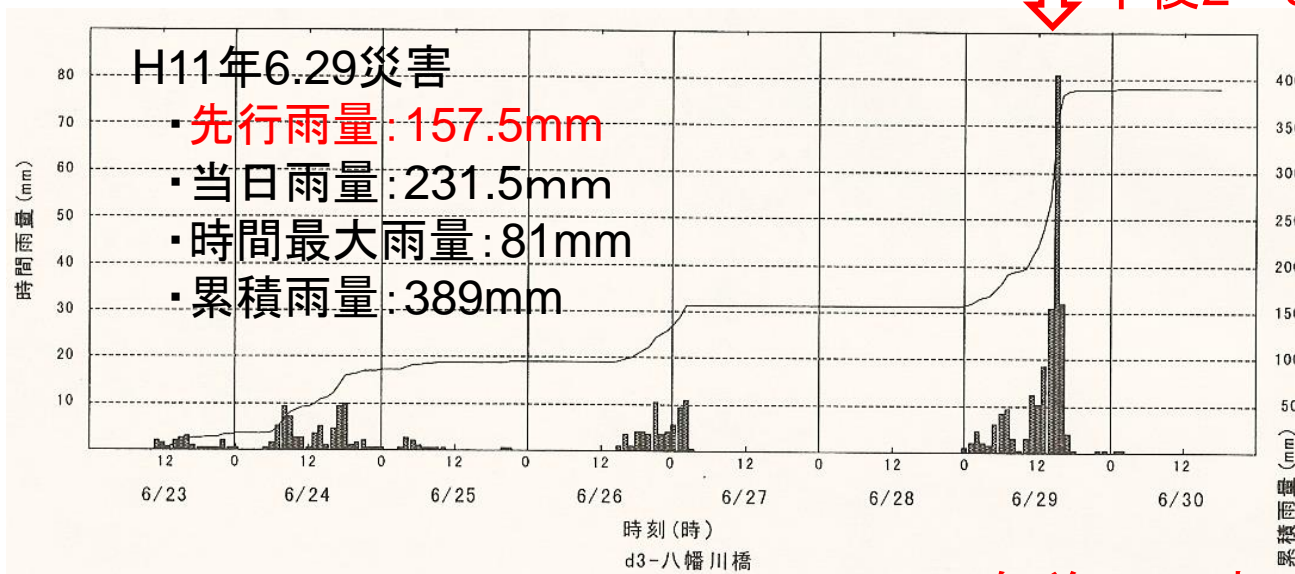
- 斜面崩壊が少なく、圧倒的に土石流災害が多い
- 流木による被害が少なく、岩石と土砂による被害が顕著

- 防災体制(6.29災害の教訓から)

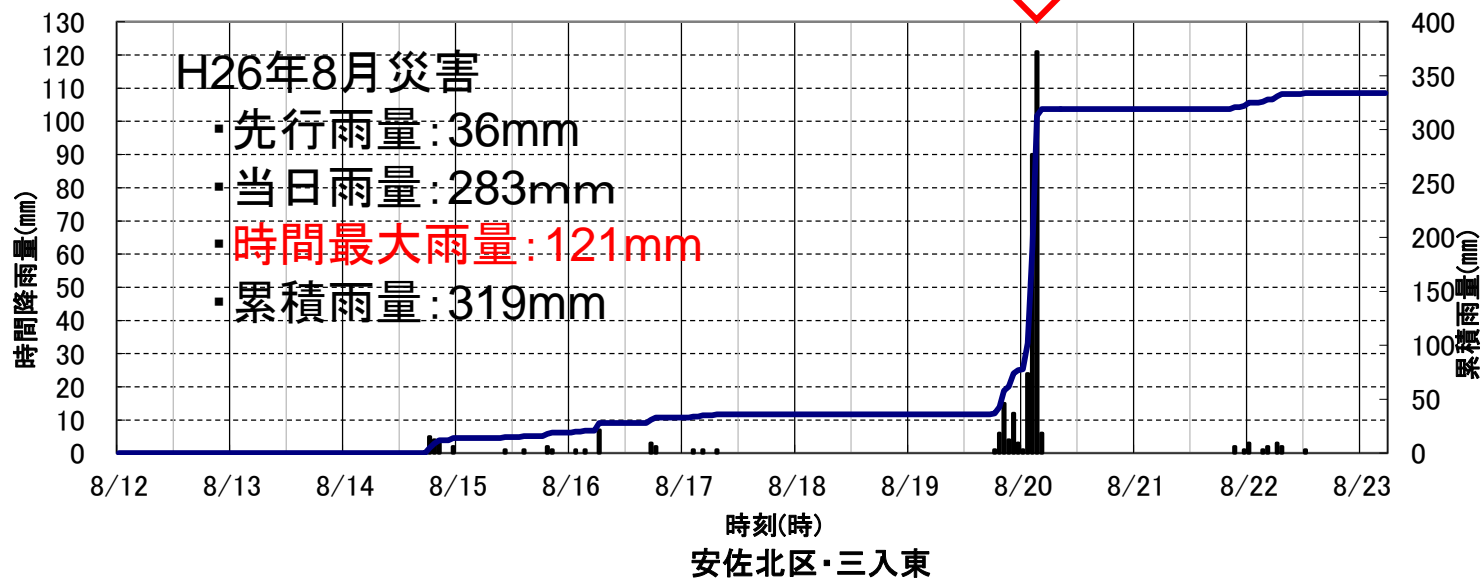
- 土砂災害防止法が制定(ハザードマップ等が作成・公開)
- 雨量観測網が整備:201箇所(機関ごと)⇒410箇所(一元化)
- 広島県防災Web、防災情報メール配信サービスが整備

降雨状況

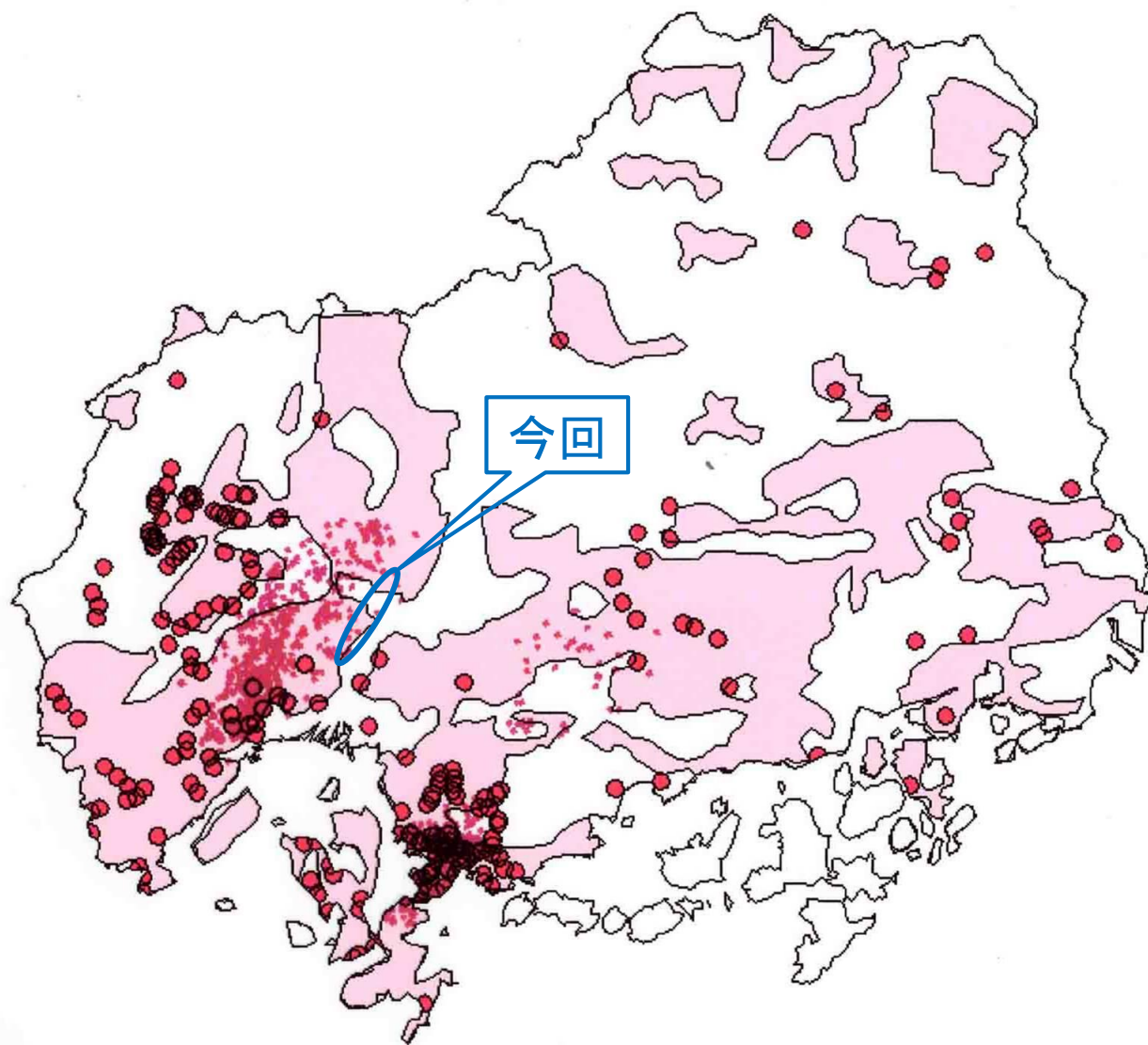
午後2~5時



午前2~4時



既往土砂災害被災地と花崗岩分布地域



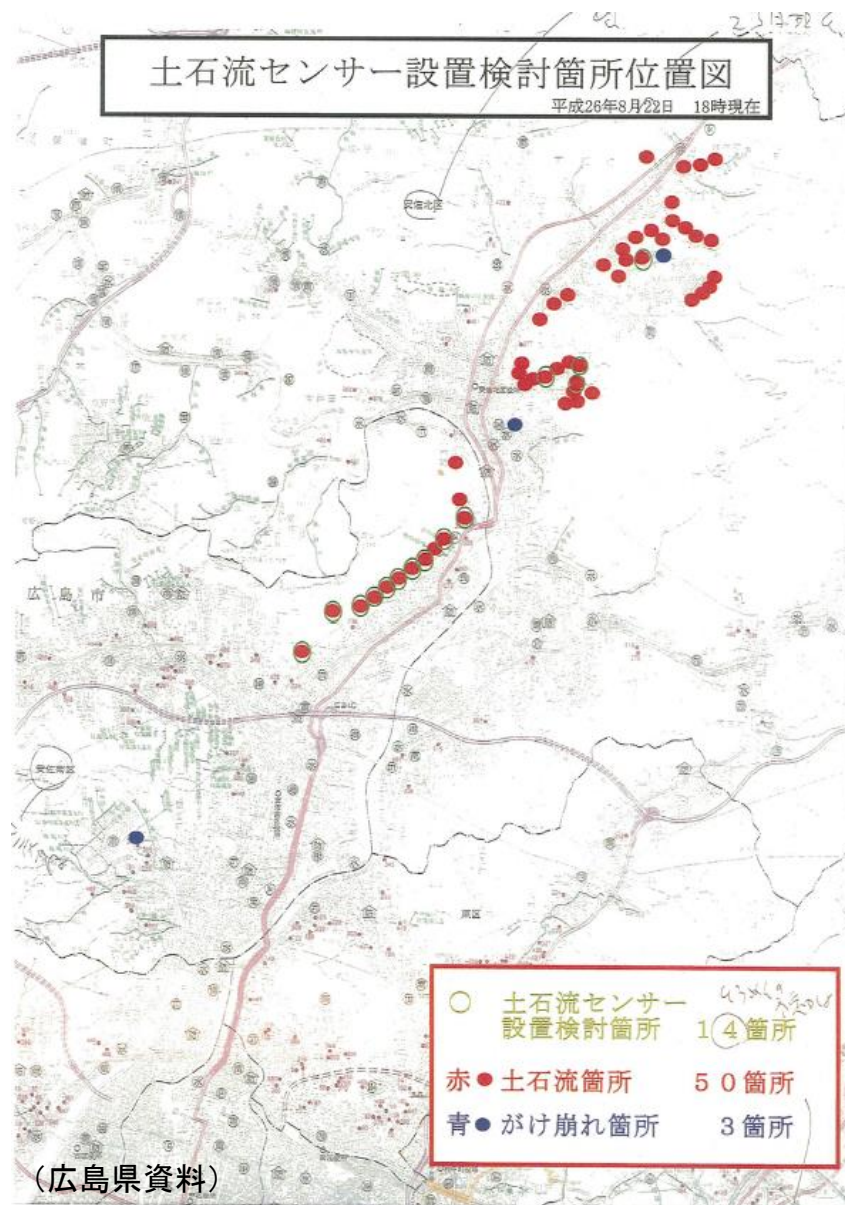
災害の種類

H11年6.29災害

- ・がけ崩れ：186箇所
- ・土石流：139箇所

今回

- ・がけ崩れ：3箇所
 - ・土石流：50箇所
- (平成26年8月22日現在)



今後の調査

- 6.29災害の教訓が活かされたこと
- 6.29災害の教訓を活かせなかったこと
- 何故活かせなかったのか
- 今回の災害の特徴(事象の調査)
- 再度災害防止のために必要なこと